

ウスバカミキリ

様々な樹木の幹の腐朽や傷害のある部分から木くずがでる。材内に白っぽいイモムシ（幼虫）。最大長約75mm。腐朽や傷害を拡大させる。このため、樹木が衰弱したり、木が折れやすくなる。



1. 被害。2001/6. 美唄市, シラカンバ。
たぶんゴマダラカミキリ被害木。



2. 成虫, 体長45mm. 2001/8/6.
写真1の幹上。

【学名】 *Megopis sinica*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , カミキリムシ科 (Cerambycidae)

【特徴】

成虫は黄褐色から黒褐色。体長30～50mm。鞘翅に2対の縦の細い線があるが、雄ではやや不明瞭。

幼虫は他のカミキリムシの幼虫とほぼ同様だが、前胸背板に多数の短い横しわがある点で識別できる。

【生態】

キリ、ポプラ、ヤナギほか様々な樹木につく。病虫害等による傷害木や部分的に腐朽した木に発生しやすい。

成虫は朽ち始めた枝の切り口など腐朽部位に産卵し、幼虫はそこから材内深く穿孔し、健全な材部にも侵入する。幼虫は材部を食べて成長し、木くずを外に排出する。孔道は断面が楕円形、長径最大30mm。

1世代に2年以上を要するといわれている。成虫は夏に出現、夜行性で日中は幹の根元や腐朽部位に隠れている。雌成虫は幹や枝の腐朽したところに産卵する。

【被害と防除】

北海道では被害はほとんど記録されていないが、普通種である。街路樹などが高齢化するにつれ注意が必要と考えられる。

腐朽がある木が被害を受けるので、生立木に腐朽が発生しないよう管理することが重要である。

【文献】

1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病害虫, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)

1994. 遠田暢男. ウスバカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 219-220. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ウスバカミキリ kamikiri/usubakam/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/6.

seichu1.jpg

「写真1～2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.